和歌山に再びトライアスロンの灯を

　　　　　　　　　　　　　　　　和歌山県トライアスロン連合(WTU)

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　理事長　北　山　敏　和

　かつて和歌山はトライアスロンの先進県でした。日本で初めてのトライアスロン大会である皆生トライアスロン大会が開かれたのが1981年、その3年後には串本トライアスロン大会が開催され、1988年からは白浜でショートトライアスロンシリーズ戦、さらに1997年からは美山トライアスロンが開催されるなど、多くのアスリートたちをこの地に迎え、熱戦を繰り広げました。しかし､諸般の事情から、近年その灯が消え、アスリートたちを駆り立てるすばらしい環境がありながら、トライアスロン大会の空白県に甘んじざるを得ませんでした。

　そんな中で今回、白浜町、白浜町民有志、そして和歌山県トライアスロン連合の思いが結実し、トライアスロン先進県復活の烽火(のろし)である『第1回南紀白浜トライアスロン大会』の開催が決定しました。スイム、バイク、ランともコース環境は日本のトップクラスです。都市部からのアクセス、宿泊施設、それに周辺のレクリエーション、リラクゼーション環境も加えた総合力でも、今後本州での中心的大会に成長する可能性を十分に持っています。

　ただし、それは第1回大会の成功があってこそ叶うものです。成功とはマスコミに大きく取り上げられることや、収支が黒字に終わることで評価されるのではありません。安全な環境の中で、公平な条件で、選手たちが練習の成果を十分に発揮し、その姿を地元の人たちが心から応援出来ることです。

　そのためには大会を支える「人」の要素がきわめて重要です。コースの安全確保、審判、レースのサポート、大会期間中の生活の支援、そしてレースの応援、それらすべてに多くの人々の協力があってこそ大会の成功が見えてきます。大会は5月11日(日)です。それまでの期間の準備と、大会後の後始末まで、大小さまざまな作業がこれから本格的に始まります。

　トライアスロンを愛するみな様、そしてとりわけ和歌山県トライアスロン連合に加盟する団体、構成員のみなさま、大会成功のためにぜひともみなさんの力を貸して下さい。

　繰り返しになりますが、和歌山県は全国に誇れるトライアスロン環境を備えています。それをより多くのアスリートの共有財産にするとともに、これまで県外のいろいろな大会で多くのスタッフやボランティアのお世話になったお礼の意味も含めて、力をあわせて大会を成功に導こうではありませんか。

ぜひともよろしくお願いします。